

- 2面 「海の日」表彰式典〈関東〉
3面 国土交通省海事局・神戸運輸監理部職員が「戦没した船と海員の資料館」を見学・意見交換

船員しんぶん

◆ホームページアドレス <https://www.jsu.or.jp> ◆Eメールアドレス kaiin@jsu.or.jp
全日本海員組合発行 第3127号 (昭和25年8月24日第三種郵便物認可)

2026年(令和8年)
9月5日
本紙は毎月5・15・25日発行
〒106-0032 東京都港区
六本木7丁目15番26号
全日本海員組合本部
発行人 齋藤 洋
TEL 03-5410-8329
FAX 03-6910-5339
定価1部50円
(組合員の購読料は組合費に含む)

秋の味覚サンマの大漁目指し出漁! 福来旗で航海安全と大漁を願う

北海道沖へ鮫子沖で操業

サンマ棒受け網漁が8月10日0時に解禁されることから、北海道根室市の花咲港からサンマ漁船が一斉に出港した。今年のサンマ漁場への来遊量は昨年を下回り、大きさも小ぶりの予想となっている。棒受け網漁は、サンマが光に集まる習性を利用して集魚灯で網に誘導する日本の伝統漁法。主に北海道から東の公海で操業した後、ロシア水域を含む近海でも操業を行うが、今季は日露間での漁業交渉の妥結が遅れたことなどをを受け、ロシア水域の操業を見送るため、水揚げ量の推移が注目されている。



気仙沼港



城船団が一致団結し、昨年に続き気仙沼のサンマ水揚げ本州一に向けて頑張ります」と大漁満船への意気込みを語り、各船は見送りの声援を受け、一路、北海道の花咲港へ向け出港した。

大船渡港(気仙沼支部)

8月8日、大船渡港でサンマ棒受け網漁船6隻の出港式が開催され、乗組員の家族や関係者のほか、多くの市民がサンマ漁船の一斉出港を見送り、安全航海・安全操業、大漁を願った。

出港式では、はじめに鎌田水産株式会社の鎌田仁代表取締役社長が安全航海・安全操業を最優先に、大漁を期待するあいさつを述べた後、海上清大船渡市長から激励の祝辞が述べられた。

続いて各船の漁労長へ花束が贈呈され、各船を代表して「第八十三笠丸」の高橋昇司漁労長が「乗組員が一致団結して、航海の安全、大漁目指し、頑張つて行きます」と大漁満船への意気込みを語り、各船は見送りの声援を受け、一路、北海道の花咲港へ向け出港した。

小名浜港(小名浜支部)

サンマ漁の主力となる棒受け網漁が8月10日の午前0時に解禁されることから、福島県のサンマ水揚げ拠点である、いわき市の小名浜港から8月6日、福島船団が大漁旗を掲げ、集結先となる北海道の釧路港に向けて出港した。

気仙沼港(北陸支部)

8月6日に気仙沼港から、北陸支部が担当する池田水産株式会社のサンマ棒受け網漁船「第三明音丸」が出港した。また8月8日、北陸支部が担当する豊進丸漁業生産組合所有のサンマ棒受け網漁船「第三十五豊進丸」が、家族や漁業関係者に見送られ、サ



小名浜港



富山県・魚津港



ンマ漁はここ2年間、豊漁に恵まれている一方、今年は日露漁業交渉の結果、ロシア水域での操業が4年ぶりに見送られることになった。

また中東情勢の悪化に伴う船舶燃料油価格の高騰と漁業資材や食料品の物価高を併せ、漁業会社を取り巻く経営環境は厳しさを増している。それでも、これから出漁する乗組員は、大漁への期待を胸に、見送りに来た家族や関係者に笑顔で応え「地元の期待に応えられるよう漁に励む」と意気込みを語り、大漁旗をなびかせながら、小名浜港を出港した。

今年のサンマ漁は、沿岸に漁場が形成されるなどし、各船が豊漁となったが、今年は日本沿岸の海水温の上昇に加え、燃料油価格や漁業資材の高騰、物価上昇など、サンマ漁業を取り巻く経営環境は懸念材料が多い。

乗組員たちは、見送りに来た家族や漁業関係者からの声援に笑顔で応え、大漁旗をなびかせ出港した。本船はサンマを求め、北海道東沖から鮫子沖にかけての漁場で12月頃まで操業する予定。

富山県・魚津港(北陸支部)

強い日差しが照りつける8

月6日、富山県の魚津港から、北陸支部が担当する中島漁業株式会社所有のサンマ棒受け網漁船「第八珠の浦丸」が、家族や漁業関係者に見守られ、集結先の北海道根室市の花咲港に向けて出港した。

出港にあたり富山県鮭鱒漁業協同組合の中島泰成組合長は「昨年同様今年も資源量は低調との厳しい予測にあるが、昨年の予測もそうでありながらも豊漁になった経緯もあり、沖に出て実際に漁をしてみなければ分からない。安全第一で操業に努め頑張つてきてほしい」とあいさつした。

出港する池田雄輔漁労長は「漁もものながら何よりも乗組員全員が健康に留意し、けがをしないよう頑張りたい」と、安全最優先で操業に臨むとの意気込みを語った。本船は、花咲港から10日の0時をもって漁場に出漁し、北海道沖から鮫子沖にかけての漁場で12月頃まで操業する予定。



祝辞を述べる浦隆幸関東地方支部長



河野昌行船長(鹿島埠頭株式会社)

「海の日」表彰式典

優良海事関係者表彰式(横浜市主催)
令和8年「海の日」表彰式(関東運輸局・第三管区海上保安部主催)



受賞者と家族を交えての記念撮影

横浜開港167周年みなと祭優良海事関係者表彰式

7月29日、横浜港大さん橋国際客船ターミナル内の大さん橋ホールで、横浜開港167周年みなと祭優良海事関係者表彰式が行われた。船員関係者で表彰されたのは新協和海運株式会社小山内誠一船長、株式会社新日本海洋社の勝野大輔機関長、東京汽船株式会社の金野達彦船長、軍司裕機関長、下田和博甲板員の5人。

式典では山中竹春横浜市長から、港湾エンジニアと船員の各代表者に表彰状が授与され、船員を代表して勝野機関長が登壇した。

山中横浜市長は、今回表彰の対象となった港湾エンジニア36人と船員5人の永年にわたる横浜港への貢献をたたえた。続いて来賓各位から祝辞が述べられ、最後に家族を交えて記念撮影が行われ式典は終了した。

令和8年「海の日」表彰式

7月28日、横浜市開港記念会館で、国土交通省関東運輸局と関東地方整備局、第三管区海上保安部が合同で主催する令和8年「海の日」表彰式が行われた。

関東運輸局長表彰の部では船員2人が表彰され、鹿島埠頭株式会社の河野昌行船長が船員代表として表彰状を受け取り、永年にわたる勤続の栄誉をたたえられた。

その後、来賓の新保康裕横浜港湾局長、内野洋次郎横浜税関局長、そして全日本海員組合の浦隆幸関東地方支部長が祝辞を述べて、表彰式典は閉式した。



船員で受賞された皆さん



船員代表の勝野大輔機関長(株式会社新日本海洋社)

令和8年度愛媛地区 海運・水産懇談会



7月10日、愛媛県松山市のホテルアイスル松山で令和8年度愛媛地区海運・水産懇談会を開催し、会社関係者12社19人、海事系教育機関3校3人、四国運輸局1人、組合政治参与1人、本組合から平岡英彦中央執行委員をはじめとする執行部10人が出席し、愛媛地区の船員不足を中心とする船員政策諸課題について意見交換を行った。

はじめに清水駿愛媛支部長が「業界の喫緊の課題である船員後継者確保・育成の問題を主眼として、当地区における船員政策や諸課題について、官学労使の各観点から現状を披歴していただき、共通認識と情報共有を図りたい。特に四国地区においては、内航の有効求人倍率は常に6倍を超え、直近では9倍を超えるなど、船社数の多い四国地区の船員不足は大きな問題となっている。本日の議論が海運・水産業界、さらには四国の発展につながる有意義な懇談会となるようお願いしたい」とあいさつした。

懇談会では、本組合が船員後継者確保・育成に向けた取り組みとして、子どもたちを対象とした体験乗船や小学校への出前授業などを説明した。

続いて四国運輸局から四国管内の雇用状況、水産高校と船社の情報共有事業などの実績報告、各船員養成教育機関・水産系高等学校から学生の就職状況や各学校を取り巻く状況の説明を受けた後、意見交換を行い、出席者から活発な意見が出された。

《愛媛支部》発信

2026年9月5日
中央選挙委員会 議長 齋藤 洋

第40期全国委員の資格喪失告示
一、次の者は、規約第47条A項6号により、全国委員資格を喪失したので告示する。
《地方区・地方単位》
04 関西
05 中・四国
06 九州開門
小島 英悟
山地 健太
河合 俊季

第40期全国委員・補充選挙の告示
規約第45条および全国委員選挙規則第25条に基づき、第40期全国委員補充選挙の実施について次のとおり告示する。
一、補充選挙を行う選挙単位と補充定員
《選挙単位コード・単位名》
地方単位 04 関西 1名
二、補充選挙の実施日程
立候補届出期間 2026年9月5日より
2026年9月14日まで
候補者告示 2026年9月15日
投票期間 2026年9月15日より
2026年10月14日まで
当選人告示 2026年10月15日(予定)
三、補充選挙の被選挙人
(1) 地方区
全国委員選挙規則第25条A項により、補充選挙告示日に当該地方単位の支部機関に配属されており、選挙資格を有する執行部員とする
四、立候補の届け出
立候補をする者は、全国委員選挙規則付表の一に定める様式に基づく立候補届を担当地区選挙委員会へ提出する。
五、補充選挙の実施に関する問い合わせ先
中央選挙委員会事務局(総務部)
以上

戦没した船と海員の資料館



岡村スタッフから説明を受ける河野順海事局次長(右)

戦没した船と海員の資料館
国土交通省海事局・神戸運輸監理部の幹部が
資料館を見学・意見交換



左から杉山功神戸運輸監理部海事振興部長、岡村知則海事局海技課船員教育室長、小磯康神戸運輸監理部長、河野順海事局次長、山崎秀和館長、岡村世紀一スタッフ、佐藤宗昭関西地方支部副支部長、武津京佳神戸運輸監理部海事振興部船員労政課課長

8月8日、全日本海員組合関西地方支部会館内の「戦没した船と海員の資料館」に、国土交通省海事局と神戸運輸監理部の方々が訪れ、館内を見学し意見交換を行った。

資料館を訪れたのは、河野順国土交通省海事局次長、岡村知則国土交通省海事局海技課船員教育室長、小磯康神戸運輸監理部長、杉山功神戸運輸監理部海事振興部長、武津京佳神戸運輸監理部海事振興部船員労政課課長の5人。

「戦没した船と海員の資料館」の山崎秀和館長(関西地方支部長)と資料館のスタッフが館内を案内し、展示資料の説明を行った。

見学では、資料館スタッフの岡村世紀一さんが、展示されている▽戦時中に船舶と船員に施行された法令一覧▽大量戦没者の出た船舶▽神戸港および周辺海域における空襲と機雷敷設などを中心に当時の状況を解説した。

見学で特に印象が強かったことは、徴用船が沈没し船員不足となった頃、漁船までもが徴用船となっていたことや、2〜3カ月の短期間で船員を養成する普通海員養成所に14歳の少年が学び乗船した事実で、当時の戦争の悲惨で過酷な現実が分かる。

来館された河野順海事局次長から「貴重な資料の数々を、実際に見たり、解説を受けた方が全く違う」と感想が述べられ、意見交換を行った後、幹部の方々が大変興味深く勉強になったと感謝を述べ、資料館の見学を終えた。

《関西地方支部＝発信》

中・四国地方支部
各自治体へ
海運・船員の政策諸課題に
関する申し入れ



島根県



廿日市市



境港市



呉市



東広島市

左から峰義臣安芸津フェリー全国委員、除補修中・四国地方支部長、高垣廣徳東広島市長、中原好治広島県議会議員(組合政治参与)、西本博之広島県議会議員

中・四国地方支部は、6月8日から7月2日にかけて、中・四国地方支部管内の各自治体へ、海運・船員政策の申し入れを行った。

申し入れ先

- ▽6月8日：東広島市、東広島市議会
- ▽6月10日：廿日市市、廿日市市議会
- ▽6月12日：呉市、呉市議会
- ▽6月30日：境港市
- ▽7月2日：島根県、島根県議会

各自治体へ▽船員後継者の確保・育成に向けた取り組みについて▽船員の住民税減免措置の実施▽船員養成教育機関の維持・定員拡大▽船舶燃料油対策などの減免措置▽海上公共交通への支援政策の実現▽海難事故撲滅と安全対策などを強く求めた。

令和8年度
海上殉難者慰霊祭
読経と灯籠流しで758柱の冥福祈る



灯籠流し(三崎港)



式典風景



出口嘉一三浦市長の追悼の言葉

8月16日、19時30分から、三浦市民ホールで、令和8年度海上殉難者慰霊祭式典がしめやかに執り行われ、遺族や関係者など約100人が参列した。

海上殉難者慰霊祭は、三崎港発展の礎になった漁業者の死を悼むもので、合祀者は今年度1名が新たに合祀され758柱となった。

慰霊祭を主催する実行委員会は、三浦市と全日本海員組合三崎支部、三崎船舶主協会など7団体で構成され、出口嘉一三浦市長が委員長を務めている。

はじめに出口三浦市長が「全国有数の遠洋マグロ漁業基地として発展した三崎港を取り巻く状況は非常に厳しいが、水産業を中心に関係産業の活性化に取り組んでいる。

三浦市の水産業が発展する」とが、海に生き、海に殉じられた諸霊に報いる道と信じている。合祀された諸霊の冥福とご遺族の平安をお祈りする」と追悼の言葉を述べた。

続いて実行委員会を代表し、全日本海員組合三崎支部の浦隆幸関東地方支部長兼三崎支部長が「諸霊は、生前海を職場に沿岸、沖合、遠洋とそれぞれの漁場に魚群を追い求め、水産業の第線に立ち専心漁労に従事され、大いなる活躍をされた。海難事故撲滅になお層の努力を傾注するとともに諸霊の意思を体し水産業の発展のために限らない前進をすることをお願い申し上げる」と追悼の言葉を述べ、慰霊祭式典後、三崎港内で海上灯籠流しと読経が行われた。

《三崎支部＝発信》

平和ナガサキ集会



連合(日本労働組合総連合会)

広島と長崎で平和集会

運動の継続で核兵器廃絶と恒久平和を実現しよう



平和ヒロシマ集会

千羽鶴を献納(中・四国地方支部)



海の日関連行事

海浜クリーンアップ活動

北九州市 福岡市 大分市 鹿児島市

北九州市・和布刈公園

7月2日、北九州市和布刈地区で全日本海員組合九州関門地方支部主催の「ウォータフロントクリーンマナーアップ作戦」を実施し、和布刈公園内にある明石与次兵衛の石塔周辺と殉職船員慰霊碑周辺を関係職場委員、各社組合員の協力のもと総勢14人で清掃を行った。

大分市・田ノ浦ビーチ

7月7日、大分市田ノ浦ビーチで、大分海の日協賛会主催の「ウォータフロントクリーン作戦」を実施し、全国海友婦人会(大分地区)と海事関係諸団体の総勢14人が参加し海浜清掃を行った。

福岡市・博多ふ頭

7月14日、博多ふ頭で、福

岡海の日協賛会主催の「海の日クリーンアップ活動」を実施し、福岡海寿会と九州郵船株式会社の現場組合員、海事関係諸団体の総勢27人が参加し、サンセットパークからぴあトピアロムナード周辺の海浜清掃を行った。

今年も天候に恵まれ、多数の参加者の協力で海浜清掃活動を行うことができた。今後も海の恩恵に感謝し、美しい海を未来へ引き継ぐため、環境保全活動および地域貢献活動の一環としてクリーンアップ活動を推進していく。

九州関門地方支部「発信」

鹿児島市

7月24日、「海の日」関連行事の一つ、海の日クリーンアップ大作戦を実施し、鹿児島支部近辺の清掃活動を行った。

当日の鹿児島地方は炎天下で気温も30度を超え、熱中症に注意を払いながら執行部職場委員、現場組合員など、27人が参加した。

今回の清掃区域は広範囲となったため複数のグループに分かれ、それぞれ別用のごみ袋と飲料水を持ちながら、各人が体調管理とけがに注意しての清掃作業となった。

普段は交流することがない同業他社の組合員と協力し合い、コミュニケーションを深めながらの清掃活動となり、参加者からは「普段気にしたこともなかった場所だが、今回清掃を行って見えていない場所まで気にかけたことで心から気持ち良くなった。他社の組合員とのコミュニケーションもとれたので来年も参加したい」との声が聞かれた。

《鹿児島支部「発信」



清掃風景

清掃開始